

多摩支部会報第71号

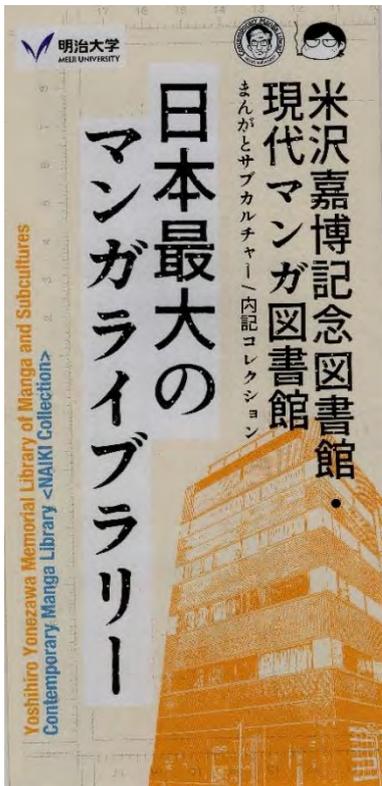
MEIJI UNIVERSITY
ALUMNI ASSOCIATION

2025年9月1日発行

日本最大のマンガライブラリー



明治大学米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館のご案内



明治大学駿河台キャンパスに、日本最大級の約42万冊のマンガの蔵書数を誇る「マンガライブラリー」があります。場所は、JR御茶ノ水駅より徒歩7分の駿河台キャンパス内、猿楽町第5校舎にある「米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館」です。この図書館の成り立ちや活動の目的などについて、ご紹介をさせていただきます。

（成り立ち）

その成り立ちは、2009年に遡ります。当時、国際日本学部の教授を中心に「東京国際マンガミュージアム」の構想が持ち上がり、その先駆けとして、明治大学出身の米沢嘉博さんの蔵書を元に、マンガや雑誌、同人誌など約14万冊を所蔵するマンガとサブカルチャーの専門図書館である「米沢嘉博記念図書館」が開館されました。そこに、内記稔夫さんが設立した、マンガ単行本や雑誌など約27万冊の所蔵を持つ日本初のマンガ専門図書館「現代マンガ図書館」が複合。2021年から『米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館』として運営が始まりました。

（活動の目的）

マンガという資料を網羅的に収集・保存し、伝えていくこと。この理念のもと、発行から時間が経つと入手困難になる雑誌を中心に、商業、同人問わず国内外の作品を収集していく。圧巻の蔵書数は、米沢さんと内記さんのマンガアーカイブへの情熱を継承しています。また、その活動は、保存にとどまらず、文化庁への知見提供や、新聞社へのおすすめ作品の寄稿といったマンガ文化への貢献も行っています。かつての貸本文化を支えた貸本漫画誌やコミックマーケットの見本誌など、ここでしか読めない資料も多数保管。それに加えて、企画展も定期的に行なうなど、作品を“読む”だけではないマンガの楽しみ方を発信しています。

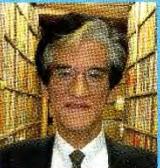
（「明スポ」（第548号）から転載）

よねざわよしひろ
米沢嘉博
マンガ評論家・
コミックマーケット準備会前代表



1953年熊本県熊本市生まれ。
明治大学在学中より批評集団「迷宮」の活動に参加。ライター・編集などを経て1980年より「戦後マンガ史三部作」を刊行、以後マンガ評論を中心に大衆文化関連の評論を行う。1975年第1回コミックマーケット創立メンバーの一人。1980年から2006年までコミックマーケット準備会代表を務め、現在の同人誌即売会コミックマーケットの理念を形作った。
1999年「別冊太陽 発禁本」（平凡社）刊行。この著作で第21回日本出版学会賞を受賞、2002年「藤子不二雄論（FとAの方程式）」で第26回日本児童文学学会賞受賞、2005年、第44回日本SF大会HAMACON2にて柴野拓美賞受賞。
2006年逝去。
2010年「マンガ研究の基礎資料の収集と評論活動などの幅広い業績」に対して第14回手塚治虫文化賞・特別賞を受賞、2011年「戦後エロマンガ史」（青林工藝舎）が、大衆文学研究賞（甲乙女賞基金）大衆文化部門を受賞。

ないせとしお
内記稔夫
現代マンガ図書館
<内記コレクション>設立者



1937年東京都神田生まれ。
貸本屋「山吹文庫」、新刊販売も行う「ナイキ書房」を開業。大衆文化を支えるマンガ本が散逸することを惜しみ、1978年に日本初のマンガ図書館「現代マンガ図書館（内記コレクション）」を設立。
広くマンガ文化の保存を目指し、貸本を始めとし、マンガ雑誌やマンガ単行本の収集、整理、保存に努める。なかでも昭和30～40年代に発行された貸本マンガの蔵書は充実。
1997年「現代マンガ図書館の設立と運営」に対して、第1回手塚治虫文化賞特別賞を受賞。
2009年にコレクションを明治大学に寄贈した後も館の運営に当たり、米沢嘉博記念図書館の開館準備にも携わる。
2012年逝去。

年表 CHRONOLOGY

青木内記社
オレシキ米沢氏
黒本開氏及び内館

- 1955 内記稔夫氏「貸本屋「山吹文庫」を新宿に開業
- 1972 明治大学卒業、卒業後に米沢嘉博氏へ入学
- 1975 米沢氏を創設メンバーとして同人誌即売会「コミックマーケット」第1回開催
- 1978 内記氏、貸本業の蔵書を核に「現代マンガ図書館（内記コレクション）」を新宿区に設立
- 2004 ヴェネチア・ビエンナーレ国際博覧会「日本館展示」おたく・人格リ空間リ都市に米沢氏が代表を務める「コミックマーケット準備会」が出席
- 2005 同展示物や内記コレクションを核とする複合アーカイブ施設の構想が持ち上がる
- 2008 同展示物が明治大学に移管される。
明治大学国際日本学部が設立され、マンガ等日本のポップカルチャーの研究教育開始
- 2009 明治大学、東京国際マンガミュージアム構想を公表、先行施設として米沢嘉博記念図書館を開館、新宿の現代マンガ図書館の運営を引き継ぐ
- 2010 米沢嘉博記念図書館にて「コミックマーケット」の見本誌の閲覧提供を開始
- 2021 新宿の現代マンガ図書館を明治大学駿河台キャンパスに移設、米沢嘉博記念図書館との複合運用を開始



(閲覧について)

当図書館では、2階に「閲覧室」を設け、マンガ雑誌、マンガ単行本、展示に合わせた資料など約4,000冊を手にとることが出来ます。

資料の多くは、閉架式で保存しています。窓口での申請、事前予約などで、ご希望の資料を閲覧室に取寄せて読むことができます。(有料)

(Access)

- ・住所：千代田区神田猿楽町1-7-1
明治大学猿楽町第5校舎
- ・電話：03-3296-4554
- ・最寄駅：JR 御茶ノ水駅より徒歩7分、水道橋駅より徒歩8分、
地下鉄神保町より徒歩8分
- ・開館日：平日(月・金のみ) 14:00~20:00
土・日・祝 12:00~18:00
- ・休館日：火・水・木、年末年始、特別整理期間



ふくふくふろく展の開催

現代マンガ図書館では、定期的にテーマを変えて、企画展が開催されています。

今年の夏から始まったのは、「ふくふくふろく展」。少年、少女向けマンガ雑誌に付いていた「ふろく」を通じて、読者の記憶と時代の空気をたどる展示です。

展示資料は、全て「現代マンガ図書館」の所蔵品。普段は倉庫に眠っている「ふくろ」たちが、この機会に日の目を見ます。資料の保存だけでなく、マンガ文化の広がりをも多角的に伝えることも図書館の使命です。ページをめくる以外の出会いがここにあります。(明スポ(第548号)から転載)

資料提供：米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館、明スポ



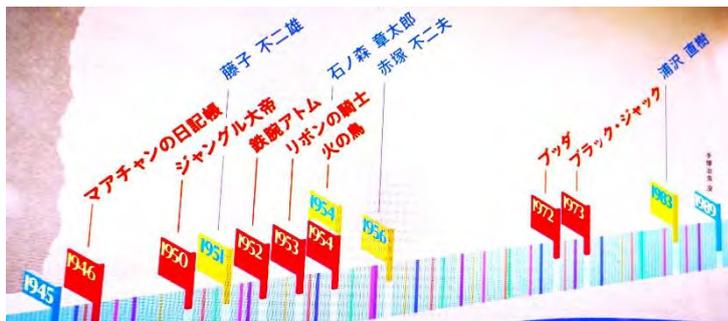
から「研究紹介アニメ」をご紹介いたします。

「漫画の研究で「名もなき人々」の生活が見える。」

宮本大人（みやもと ひろひと）明治大学 国際日本学部教授の研究の紹介です。
専門は、戦前の漫画史研究で、手塚治虫作品への興味から漫画研究を志しました。

日本の漫画史には大きな「空白」が存在する・・・？

日本が世界に誇る一大産業である漫画。その歴史において大きな功績を残し、今なお多くの作家に影響を与えているのが、「手塚治虫」です。しかし、彼の残したとされる功績には、いくつかの謎があります。その謎に迫るため、宮本先生と一緒に戦前の漫画史を辿りました。漫画という娯楽の歴史を振り返ってみると、当時を生きた人々の生活や感情が浮かび上がってきます。私たちの知らなかったもう一つの歴史の側面を、覗いてみませんか？



TOPIC 1

知られざる『手塚以前』のマンガ史

TOPIC 2

手塚治虫が残した、真の功績

TOPIC 3

マンガを通じて
遠い時代の『普通の人々』を知る

上記の内容につきまして、「Meiji.net」をご覧ください。



Meiji.net とは

Concept: *Expand the World*

研究ってなんだろう？

それは、まだ見えていないものを発掘し、

産まれていないものを産み落とし

思い込みで絡まった糸を解きほぐす

私たちの「世界を広げる」仕事

明治大学の研究者たちが見据えている

あたらしい世界

どんな世界が待っているのか

覗いてみましょう

最新記事 Latest

様々な専門ジャンルの教授陣による最新情報を紹介

研究紹介アニメ Video&Features

教授陣が日々向き合う研究内容を中心に

明治大学の「知」をアニメーションでわかりやすく紹介

リレーコラム Column

ある一つのテーマを個性豊かな明治大学の教授陣がリレー形式で語る、必読のコラムです。

- 学びを加速させるアドバイス
- 人生で影響を受けた人物
- 研究の裏話
- アイデアの泉
- 座右の銘 私のモットー
- 次世代リーダー

■箱根駅伝予選会 応援！

箱根駅伝予選会は、2025年10月18日（土）立川昭和記念公園で開催。

多摩支部の皆様これまでになく強い応援をお願いいたします。

紫紺の襷に込めた明治大学の夢に向かって！

集合場所：昭和記念公園 西立川口ゲート前（JR 青梅線西立川駅下車公園口より徒歩2分） 集

合時間：10月18日（土）午前8時30分

なお、応援場所につきましては、多摩支部会報第72号（次号です）等でご案内します。

結果発表後、立川「良銀」にて、懇親会（早めの昼食会）の開催を予定しております。

お問い合わせは、多摩支部幹事長 江面まで <event@meiji-tama.net>

■第28回 ホームカミングデー Home Coming Day 開催



全校友対象！ 第28回 ホームカミングデー 10月26日開催

ホームカミングデーはどなたでも自由にご参加いただけるイベントです！
詳細は決定次第ホームページにてご案内します。

Homecoming Day

第27回(2024年)ホームカミングデー当日に実施した一部企画の様子は、現在もYouTubeで視聴可能です。
詳細は大学ホームページをご覧ください。

ホームカミングデー大学ホームページ
<https://www.meiji.ac.jp/koyuka/homecoming/index.html>

下記の第28回(2025年)特別招待年次の皆さまには、8月下旬に大学登録のご住所（「明治大学広報」のお届け先）へ招待状をお送りいたします。

▶1955(昭和30)年卒	▶1965(昭和40)年卒	▶1975(昭和50)年卒
▶1985(昭和60)年卒	▶1995(平成7)年卒	▶2005(平成17)年卒
▶2015(平成27)年卒		

詳細は、明治大学ホームページをご覧ください。

■第9回 多摩支部ゴルフ大会

開催日：10月20日（月）

開催場所：青梅ゴルフ倶楽部

申し込み：先着40名

締切り：9月26日（金）

お問い合わせ・お申込みは、多摩支部企画委員会まで

<tamakikaku@meiji-tama.sakura.ne.jp>



青梅ゴルフ倶楽部

■2026年第23回多摩支部定時総会

開催日：2026年6月28日（日）

開催場所：ホテルエミシア東京立川（2025年第22回と同じ）

第23回多摩支部定時総会実行委員会が発足しました。

実行委員会担当地域支部：昭島・国立・青梅・国分寺・清瀬の各地域支部

実行委員長：永代達三（清瀬地域支部長）

副委員長：高久みどり（国分寺地域支部長）



（2025年第22回多摩支部定時総会）

地域支部だより

国分寺地域支部

国会議事堂の見学に行ってきました。
来ました。



衆議院第二議員会館 12階から



議員事務室



議員食堂



衆議院玄関前



中央玄関



御休所



中央広間



衆議院議場

国分寺地域支部では、去る8月7日(木)、今年度の企画活動として、「国会議事堂見学会」を実施しました。

ご参加いただいた皆さんの多くは、小学生の時に社会科見学の一環として、国会議事堂の見学をされたことと思います。

今回は、「大人の社会科見学会」ということで、衆議院議員の現役秘書である国分寺地域支部会員の岸八州男様のご案内で、午前11時30分から午後3時まで、長時間にわたり、国会議事堂内の隅々まで見学をさせていただきました。国会が閉会中ということもあり、普段一般の見学者が入れない場所も岸様のご配慮で見学することが出来ました。(写真撮影などは不可)

当日は、衆議院第二議員会館の「議員事務室」で、岸様から、詳細な見学行程の説明を受け、見学がスタートしました。

まず向かったのは、衆議院第二議員会館の最上階12階です。そこからは、眼下に高さ20m(中央塔は65m)の国会議事堂や霞ヶ関の官庁街が一望できます。特に、昭和11年(1936年)竣工の国会議事堂は、長い年月を経た現在でも凛とした美しい建物でした。

次に向かったのは、約4kmに亘り敷き詰められた赤絨毯の議事堂内に足を踏み入れました。

衆議院議院運営委員会が行われる「議長応接室」や「御休所」、「中央玄関」、伊藤博文、板垣退助、大隈重信の銅像が三方に立っている2階の「中央広間」などを見学。

午後1時、少し遅めの昼食です。一般の方は特別通行書がなければ利用できない「議員食堂」(衆議院本館2階)での食事です。多くのメニューがありましたが、やはり、人気は名物のカレーでした。

昼食後、見学を再開。まず、「衆議院議場」へ。議場は、重厚で、厳粛な雰囲気を感じさせていました。議員の議席は、建築当初のサイズなのか少々窮屈な感じでした。次に、衆議院予算委員会が開かれる「第一議員室」。閉会中で、人気もなく、静寂な会議室でしたが、どこからか議論の喧噪が聞こえてくる感じでした。

恒例の記念写真は、外の衆議院玄関付近で撮りました。最後に、国会議事堂の名物土産物店「思い出屋」で見学の記念にお土産をゲット。

本日の「国会議事堂見学会」は終了しました。3時間30分、長丁場に亘る見学会でしたが、丁寧な説明、加えて、「議長応接室」や「第一議員室」などの見学、そして、「議員食堂」での昼食などなど、多大なご尽力を頂きまして、岸様には深く感謝申し上げます。

(記・写真：佐々木一郎。なお、写真の一部は、国会のパンフレットを使用。)

内藤 達也 (国分寺地域支部 平 18・大学院ガバナンス研究科修了)



わたしは、1979（昭和 54）年、國學院大學卒業後、国分寺市に入職しました。採用後は、市民のみなさんから最も嫌われる課税課を振り出しに、防災課、学芸員資格（近世文化史）であったこともあり文化財課、さらに都市計画課に異動となりました。

この時に「まちづくり条例」の策定を時の市長より特命されました。この条例は、単なる理念条例でなく、規制条例（市民の生活、行動、財産等）であることから、都市計画はもちろん建設、景観、法務など様々な専門知識に加え、市民参画が必須となり、個人的に各種研修、勉強会、講座などに出席し、改めて基礎から学びながら、市内各地で市民との意見交換会を重ねていきました。

そんな折、2003（平成 15）年から、規制条例の先進市といわれる鎌倉市に自治法派遣を命じられ、往復 4 時間の勤務時間をかけての通勤生活が始まりました。条例の施行状況や市民参加など実務は、この派遣勤務で身につけることができました。しかし悲しいかな文学部出身ということもあり、法務関係や協働の知識が欠けており、新たな分野でもあることから、教えてもらえる先輩もおらず悩んでいました。そんな時、通勤電車の車内広告「明治大学大学院ガバナンス研究科開校 学生募集」が目にとまり、「これだ」と思い、駄目元で俄か受験勉強を始めました。なんとか合格通知をいただき、2004（平成 16）年 4 月より昼は勤務、夜間と土曜日は、駿河台通う生活が始まりました。この間、行政学の大家である中邨章先生に鍛えられ、講義だけでなく様々な研究会や学会に加えていただき、私にとってとても大きな財産となりました。

国分寺市に戻り、2006（平成 18）年 4 月、協働コミュニティ課長に昇任、その後、財政課長、政策経営課長などを歴任し、2010（平成 22）年都市計画部長に昇任しました。総務部長、政策部長など歴任後、2016（平成 28）年 4 月に副市長に就任し、昨年令和 6（2024）年の 3 月まで 2 期 8 年間務めさせていただきました。



副市長時代、
ベトナム大使館でホストタウン
締結交渉



国分寺市役所新庁舎
（令和 7 年 1 月 1 日移転）



明治大学大学院ガバナンス科講義



令和 7 年相模原市環境まつり実行委員



昨年令和 6 年の例大祭



秘仏 国指定重要文化財
国分寺薬師堂「木造薬師如来坐像」
(年 1 回、10 月 10 日ご開帳)

国分寺 お鷹の道・真姿の池湧水群
(環境省選定 名水百選)

また、大学院在学中より、日本青少年育成学会、多摩学会、日本地方自治学会に加入し、ここで得た知識を、政策立案に活かして参りました。修了後も日本協働政策学会、日本ソーシャル・イノベーション学会の立上げに関わりました。

また、2005 (平成 18)年より明治大学非営利公共経営研究所特別研究員、2006 (平成 19)年には (株) 公共経営・社会戦略研究所客員研究員として現在まで公共経営の研究を続けております。2013 (平成 26)年より 2016 (平成 29)年 3 月まで、明治大学大学経営学部特別招聘教授として公務に影響のない範囲で教鞭をとり、同年 4 月より現在まで、母校のガバナンス研究科で後輩に対し教鞭をとらせていただいています。

このように、私の地方公務員人生は、明治大学大学院に通わせていただいたおかげで、課長、部長、副市長へとキャリアアップすることが出来ました。また、昼は役所、夜は大学と今風に言えばパラレルキャリアを 20 年続けてまいりました。市役所管理職と大学教員の兼務は想像以上に厳しいものでしたが、大学院時代に得た多くの知古のみなさんにその都度助けられ勤め切ることが出来ました。

副市長退任後は、母校講師を引き続き勤めながら、2009 (平成 22) 年に立ち上げた NPO 法人アンド・アドバンス代表理事に就任し、環境活動、青少年育成活動を行うとともに、2018 (令和元) 年に発起人の一人として始めたソーシャルイノベーション・アカデミー講師として新たな人材育成に努めています。

また武蔵国分寺鎮守日吉山王内藤神社 9 代宮司として、神明奉仕を続けております。 当時のパラレルキャリアを超え、現在はミックスキャリアを実践しております。

Photo Gallery 秋色に染まる鐵道

日野地域支部 鈴木紘一（昭43・商）



写真展（「海外鐵道の旅」）で



只見線・第一只見川橋梁
（会津松原～会津西方）



嵯峨野觀光鐵道
（トロッコ保津峡～トロッコ亀岡）



秋田内陸縦貫鐵道
（萱草～笑内）



わたらせ溪谷鐵道
〈足尾～通洞〉



秋田新幹線 こまち
（田沢湖～赤淵）